

交流会報告

河崎さんの田んぼの生き物見学会 体験記

■ 第2回目となる川崎さんの田んぼの生き物見学会、またまた大好評でした！

6月13日に長野県の南箕輪村で農業を営んでいる河崎さんの田んぼで、2回目となる生き物見学会が開催されました。九州では前日に梅雨入り宣言がでて、現地の予報も怪しかったのですが、何とか雨に見舞われることなく無事開催することができました。

現地に着くなり、「もう入っていいの？」と子供たちは興味津々の様子。しかしそこはちょっと我慢してもらい、河崎さんとヘルプに来てくださった方々の紹介、そして注意事項だけ説明し、早速、見学会開始。

■ 田んぼには生き物がいっぱいでした！

まずは、田んぼにいきなり入ると水が濁ってしまうので、あぜ道(田んぼを囲んでいる通り道)に立ってもらい、そこから見える生き物を探してみました。おたまじゃくしやカエルがうようよしていて、早速子供たちは騒ぎながら虫取り合戦スタート。

そして数分後、ついに田んぼの中に入る許可が下り、さらにその興奮はエスカレート。素足で田んぼに入り、大事な稲を踏みつけないように注意しながら、歩きにくそうに田んぼの感触を味わっていました。タモやザルを片手に前進し、みんないろんな生き物を捕まえて田んぼ横に配置された大きな入れ物に捕獲した生き物を持ってきてくれました。河崎さんやヘルプの方に「これはコオイムシだね。背中に卵を乗せてるよ。」とか、「これはダルマガエルだね。」、「こっちの緑色のはアマガエルだ。」などという教えてもらい、そのまますぐに次の獲物を捕まえてにグッシュ。

田んぼに入って、その中にいる虫探しに一生懸命になっている子供たちの中で、なぜかトンボを見つけてくる子供もいました。あぜ道の草にとまっていたそうです。とっても小さくて細いモートンイトンボで河崎さんも「よく見つけたね。」と感心していました。また、ゲンゴロウ探しに夢中で、一生懸命探しまわっている子もいました。1匹ぐらいは終了までに見つかると思っていたのですが、その日はどうも見つけれず、最後はちょっとべそをかいていました。また来年、探しに来てね。

■ 河崎さんから虫のお話

大芝公園に移動して昼食をとった後、河崎さんからお話をいただきました。今回の生き物見学会で河崎さんが教えてくれたのは、田んぼがあるからこそ生きていける生き物がいるということでした。たくさん生き物たちが田んぼで生きることによって田んぼの中の生態系が維持され、田んぼに豊かな恵みをもたらしているということ。そしてそれが田んぼの周りの環境と融合し、さらに広い範囲で自然が成り立っているということがわかりました。つまり河崎さんが住んでいる南箕輪村では田んぼを中心に豊かな自然が育まれているということでした。

田んぼから流れ出ていく水は川を流れ、川に豊かさを与えます。そして海へと流れて、豊かな干潟を形成します。いろんなところで自然が繋がっているんですね。

この日の中日新聞の朝刊トップは、長良川の生態系が崩れてきているという報告でした。鮎に寄生する虫の数が減っていることが確認され、今回の結果が導き出されていましたが、その原因に長良川河口堰が指摘されていました。人間が自然を破壊したために及んだ結果のようです。

今回の見学会にはたくさんの子供が参加してくれました。彼らが大人になって何かをするとき、自然には多くの生き物が存在し、その生き物が豊かな環境を形成してくれていることを思い出し、自分が行おうとしている行為が、人間の欲を満たすための自然破壊にならないかを考えてもらえたらいいな、と思いました。



高木